

2026年4月6日

昭和産業株式会社

鹿島工場 バイオマス発電ボイラーが稼働開始

～カーボンニュートラル実現に向けた取り組みを推進～

昭和産業株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長執行役員 塚越英行）は、主力工場である鹿島工場においてバイオマス発電ボイラーの稼働を開始いたしました。なお、2026年4月3日（金）に関係者による起動式を執り行いました。

本設備は、木質チップなどの再生可能エネルギーを活用したバイオマス発電ボイラーであり、既存設備における都市ガス使用量を削減することで、CO₂排出量の低減に寄与するものです。

当社グループは、本年度、新たに長期ビジョンを策定し、2019年度を基準としたGHG排出量（Scope1,2）について2030年度に37%以上、2035年度に53%以上の削減を目標に掲げ、2050年のカーボンニュートラル実現を目指しています。本設備の稼働により、年間約3.7万tのCO₂排出量削減を見込んでおります。この削減効果は、2019年度のGHG排出量（Scope1,2）を基準とした場合、約8%に相当する規模となる見込みです。

本設備の導入は、目標達成に向けた具体的な取り組みの一環であり、今後も省エネルギーの推進や燃料転換、再生可能エネルギーの活用拡大を通じて、グループ全体での環境負荷低減とカーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。

【バイオマス発電ボイラーの概要】

- ・設置場所：昭和産業株式会社 鹿島工場
（茨城県神栖市東深芝 6）
- ・設備タイプ：木質チップ焚き
バイオマス発電ボイラー
- ・能力：蒸気 36.5t/h、発電 1,500kW
- ・CO₂削減量：約 3.7 万 t/年
- ・設備投資金額：約 40 億円



＜鹿島工場 バイオマス発電ボイラー外観＞

以 上

＜本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先＞

昭和産業株式会社 企画部コーポレート・コミュニケーション室

TEL：03-3257-2042 担当：関口